

1 本校の「いじめ未然防止宣言」

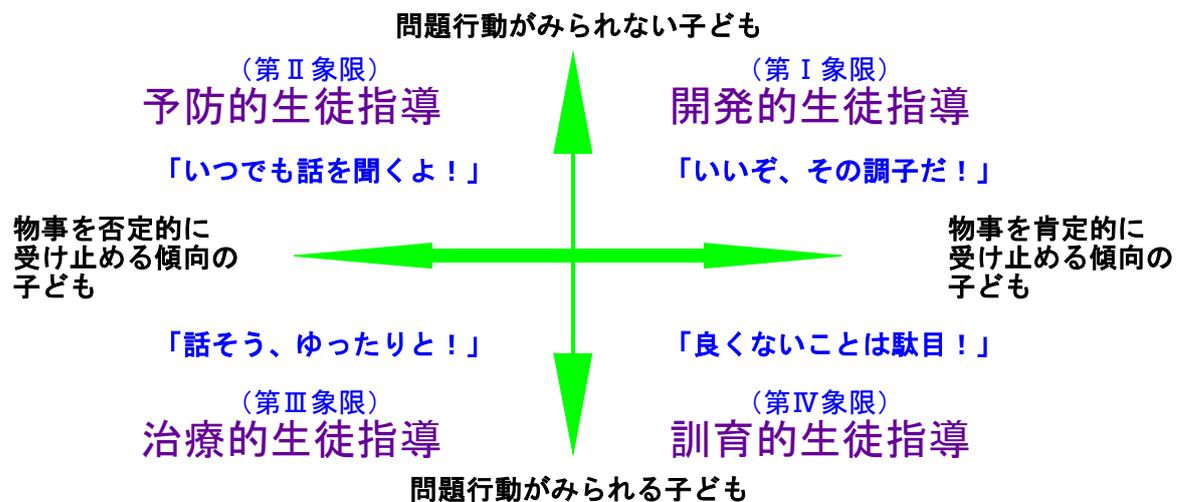
あそび？ ふざけ？ けんか？ いじめは誰にも、どこでも、いつでも起こり、ネット上で行われることもあり、見えにくいもの。

だからこそ、いじめのサインは、私達教職員が見ようとしなければ見えないもの。

私達は、このサインをぜったいに見逃しません。

もし、これらのサインを感じたら、慌てず、焦らず、思い切って時間をつくります。

「そのうちに…」などと、ぜったいに後回しにしません。子どもの命に関わる何よりも重大なことだから、まず私達が行動を起こします。すぐに組織的な行動に移します。



2 本校の「いじめ防止等の事案対象のマニュアル」

個々の子どもが4つの象限のどこに位置するのか、私達は観察し、指導を継続します。

(1) 子どもの学習や生活への意欲を高めます！

第Ⅰ象限「問題行動は見られず、物事を肯定的に受け止めている子ども」たちには、さらに学習や生活の意欲を高め、よりよい人間関係を築く特別活動等によって個性や能力を伸ばす開発的生徒指導を求めます。

第Ⅳ象限「問題行動はみられるが、物事を肯定的に受け止めている子ども」たちは、叱咤激励や説諭、説得など、我が国古来の訓育的生徒指導を中心として、目の前の子ども自身のために毅然として指導します。問題行動をきっかけにして自分の価値観や生き方を見直す指導を継続しながら、第Ⅰ象限の開発的な指導につないでいきます。これら象限の子どもは、元気で目立つ子どもが多いため、いじめのサインや問題行動の兆候は比較的、目にとまりやすく、私達は多くの教職員で継続的に観察し、対話を繰り返します。

(2) 子どもへの日常的な温かい関わりを継続します！

私達教職員が組織的な協働体制で日常的に観察し、最も関わりを持ち続けておきたいのが、目立ちにくく、見えにくい第Ⅱ象限及び第Ⅲ象限の子ども。物事を否定的に受け止めている傾向にある子どもは、その子どもの心の世界をまずしっかりと受け止め、教職員は日常的な関わりの中かで、子どもの内面に届く温かい言葉かけを継続します。

訓育的な叱咤激励等は心に届かないばかりか、安直で強引な指導はさらに意欲を減退させたり、傷つけたりします。この象限の子ども達には、その発達年齢相応の自己洞察を深め、自己肯定感を高め、否定的な受け止めに肯定的な受け止めに変容させ、第Ⅰ象限の子どもに変えていく個別の予防的、治療的生徒指導（教育相談）を私達は継続します。